



芝小だより

第一月号

道徳授業公開講座に向けて

校長 齋藤幸之介

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

三学期の登校日は五十余日となり、最も短い学期です。しかし、九か月の間子供たちが積み重ねてきたことはとても大きく、年度のまとめを迎えるにあたって子供たちの活躍に更なる期待がもてます。来年度を見据えながら本校教職員一同精一杯取り組んでまいります。

さて、今月の一月十九日に道徳授業地区公開講座を行います。すでに本年度より、通知表に「特別の教科 道徳」の欄が設けられ、学習の状況をお知らせしています。道徳の教科化は、例えばいじめ問題に端を発しているとも言われ、また、子供たちの豊かな心が、確かな学力や健やかな体を育成するための基盤となる、ともされます。

「考え、議論する」道徳

教科化に伴い、キーワードの一つとして位置付けられているのが、「考え、議論する」です。子供たちが、互いの考えを認めながら、道徳的な価値をどのように捉えていくのかがポイントとなります。文部科学省は、「多様な価値観の、時

発行所 港区立芝小学校
〒105-0014
港区芝 2-21-3
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)
FAX:03-3456-3071

に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳科としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である」と述べていますが、そのためには、自ら考え、議論をする場面を設けることが重要となります。価値の多様化はどんどん進んでいきますから、「正しい」「望ましい」ということも変化をしていくでしょう。ですから、子供たちにはこれらに対応すべく資質や能力を身に付けさせたいと思っております。

「自我関与」から考える特別の教科 道徳の充実

道徳科の学習をする上で指導者が意識すべき、と言われている言葉の一つに「自我関与」があります。これは「登場人物の立場になり、自分自身と非常に関わりが深いものとして認識する」ことであると言われています。私は平素より「共感」「共感的理解」という言葉を意識していますが、大変似た意味である、と捉えることができます。子供たちは、例えば絵本を読むとその世界に入り込むことができます。その中で、子供たちは感情や価値を学んでいます。

しかし、道徳科の学習の充実を考える上、さらに留意をしなければならないことがあります。道徳の教材の多くは読み物になりますが、登場人物の心情等の読み取りに重きを置くあまりに価値が広がらない、別の言い方をすれば狭い範囲での議論になる可能性があることに注意を払っていただく必要があります。つまり、自我関与を大切にしながら、登場人物の思いや考えを様々な立場から考えることが求められるのです。異なるいくつかの立場を冷静に捉えたとき、子供



たちはきっと迷うことでしょう。しかし、道徳的な価値の学習は四十五分では完結しないこともある、と考えれば、それは深い学びになっていると評価することもできます。

考え、議論する大切さ―他教科等との関連から

すでに考え、議論することについては述べましたが、もう少し付け足しをいたします。

二〇二〇年より完全実施になる学習指導要領、つまり新しい教育の考え方の一つに「対話的な学び」があります。これは、道徳科で言えばまさしく「議論する」です。これが、どの教科・領域でも求められる、ということなのです。もちろん、知識は大切です。しかし、知識を獲得するプロセスにおいても、また知識を活用して生活上の課題を解決する際にも、対話的に学ぶことは不可欠である、ということなのです。私共は授業改善のために様々な手立てを講じておりますが、今回の道徳授業公開講座が授業改善のよいきっかけになるように取り組んでまいります。

本校教員は、冬季休業中に各自の課題として今回実施する授業の計画（学習指導案）を立てました。手前味噌にもなりますが、誰もが必死に取り組んでいました。修正をかけたがら、さらにより学習指導案を目指して最後の仕上げを行っています。当日今までの取組が実を結びようとしてまいります。

今学期も御理解と御協力の程よろしくお願ひ申し上げます。